

10/5(日) 平成20年度菊池市女性の会交通安全ふれあいミニバレーボール大会



菊池体育センターであった大会

菊池体育センターで、菊池市女性の会交通安全ふれあいミニバレーボール大会が開催されました。この大会は、菊池市女性の会（永田澄代会長）が主催し、スポーツを通して会員相互の親睦と融和を図るとともに、広く交通安全を呼びかけることを目的として行われたものです。

同会の会員 109 人・16 チームが参加し、七城より参加の「W 高チーム」が優勝を収めました。競技中は、各コート内・外から歓声が起こり、参加者は親睦を深めながら爽やかな汗を流しました。

また、試合後、初めての試みとして「福引大会」が実施され、会員手作りのメダルや造花・パンなどの賞品に、参加者は大喜びでした。上位の結果は次のとおりです。

- 優勝 W 高チーム（七城）
- 準優勝 なでしこチーム（七城）
- 3 位 フレンドチーム（菊池）、プリンスチーム（七城）

10/11(土) 湯舟の溜池で清掃ボランティア

レモンガスクまもと(株)と、カマタ(株)（赤津慎太郎社長）の社員やその家族など約 30 人が、湯舟の溜池周辺を、ボランティアで清掃しました。これは、管内の環境美化に対する貢献などの目的の一環で両社が毎年取り組んでいるものです。

参加者は、早朝から溜池周辺の草刈りやごみ拾いなどに汗を流しました。10 月とはいえ、残暑厳しい中、午前中いっぱい作業が続けられ、すっきりした環境となりました。

両社のこの清掃ボランティアは今後も続けられます。作業、大変お疲れさまでした。



湯舟の溜池周辺の草刈り作業をする参加者

10/14(土) 菊池の街に「憩いの場」



菊池市商工会（笠 愛一郎会長）が、中心商店街を構成する「立町親衆会」（井上啓会長）に、休憩スペース用のベンチ5脚を寄贈しました。“高齢者にひと休みの場を”と今回初めて贈られたもので、ベンチは市内に工場を持つ 14 社でつくる「菊池市工業連絡協議会」（寺田章三会長）が、商工会からの特別注文を受け製作しました。

寄贈式には関係者などが出席し、井上会長が「我々の町には休む場所が少ないと言われていました。このベンチでひと休みしながら街中散策してもらいたい」とあいさつ。早速関係者が設置された椅子に腰掛け、座り心地を確かめました。

今後、ほかの商店街にも贈られる予定で、商店街の通行者増も同時に狙う目的があります。

贈られたベンチに座る関係者



本会議場で代表質問する生徒(中央)

代表質問

安心まちづくり委員会
西山運菜委員長（菊池南中）

質問▼菊池市では最近、交通事故が多発していますが、自転車・自動車の交通マナーの向上を図るために、どのような取り組みをしていますか？

答弁▼現在、学校ごとに小学校3年生を対象に自転車教室が開催されています。自転車・自動車の交通マナーに限らず、歩行者まで範囲を広げて、春・秋の全国交通安全運動や、毎月1日、10日、20日の「県下一斉交通安全の日」には菊池市交通指導員の皆さんによる街頭指導と、交

通安全広報車による啓発活動を行っています。その他、交通事故防止の取り組みについて、カーブミラーやガードレールなどの交通安全施設の整備を行っています。菊池市と菊池警察署では、今年7月10日に連絡協議会を作り、毎月1日を「安全安心きくちの日」と定め、区長会をはじめ老人クラブ、交通安全協会など、市民団体の方との連携を取りながら、防犯パトロールで巡回するなどして、交通安全指導や犯罪防止のための活動に取り組んでいます。

再質問▼今現在、自転車2人乗りなどの問題は残っており、十分だと思えます。また、「安全安心きくちの日」はどのような活動を行っているのでしょうか？

答弁▼自転車の指導に関する今後の取り組みは、地域やPTA、先生方など気づいた人が注意できる体制が必要かと思えますので、皆さんを含めて市民の安全安心のためのまちづくりを進めていけたらと思っています。「安全安心きくちの日」は、これまで各団体ごとの計画で街頭指導や巡回パトロールなどが行われているものを、統一行動日として月に1回活動し、市民総ぐるみで交通安全や犯罪の防止に努めようというものです。

発展するまちづくり委員会
菅 朱香委員長（泗水中）
質問▼いろいろな問題で、酪農業をやめざるを得ない農家の方が増えるとしたら、市はどのような対策を取りますか？

答弁▼輸入農畜産物の増加や価格の低迷、飼料や燃料の値上がりで影響を受けた農業者に対して、経営を続けていくために必要なお金を貸し付ける制度が設けられ、菊池市としては、約10億円の貸付枠を確保し、利子が無利子か1パーセントの低い利率となるよう、利子補給補助金の予算化を行っています。畜産農家では堆肥舎は特別に5年間固定資産税を減額することに なっていますが、すでに減額が終わった施設についても、本年度から新たに5年間の減額を行うなどの方法を取りながら、各農家の経営安定を図るための支援を行っていきます。その他、各種機械などにかかる償却資産の税金について、一部を減額する支援策の検討や、経済対策・景気対策を趣旨として、10パーセントの特典（5,000円で5,500円の買物ができる）を付け、菊池市内を限定して買物するときに使える「地域通貨」の実施を計画し、激変する菊池市の農業・産業発展のため

たいと考えています。
再質問▼私たちの世代がもつと農業について興味を持っていない活動は行っていないのでしょうか？

答弁▼菊池市では、幼稚園や保育園をはじめ市内のすべての小中学校で、農業体験学習が実施されています。特に中学校では、職場体験や農家に泊まりこんで農業を体験するファームステイおよび勤労体験学習などで農業の体験学習を行っています。皆さんが小さい時からこれらの活動を通して農業について興味を持ち、農業に自信と誇りを持つことを望んでいます。